

算数科・数学科部門

總 評

応募点数が倍近く増えた今回は、研究手順のしっかりした作品がたくさん集まり、全体的にレベルが上がりました。

あさがおの花の咲いた数や学校までの道のり、
クラスの読書調べや野球の打率、セーターの面積
と糸の量の関係…という具合に、日常生活の中

に題材を見つけて研究に結びつけたものが多く見られたのも今年の特徴の一つです。また、授業で習った表やグラフなどをうまく活用して、数学的に表現する工夫も年々定着してきています。

今後の作品が一段と楽しみです。

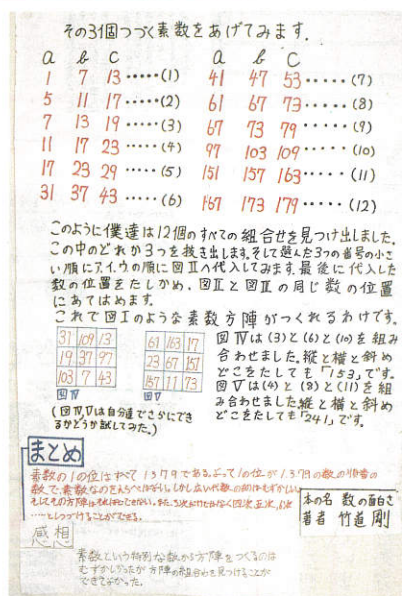
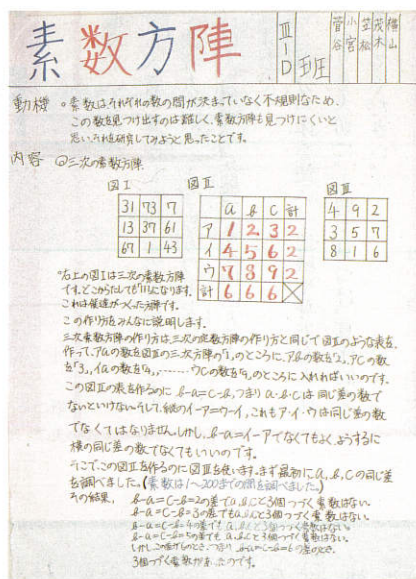
最優秀賞受賞作品

素数方陣

東京都杉並区立宮前中学校

三年 菅谷真志帆・小宮直・笠松雅純

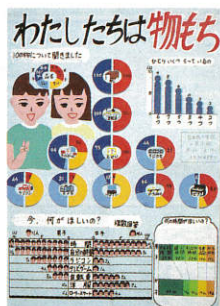
茂木炎群・横山泰治



● 選評 ●

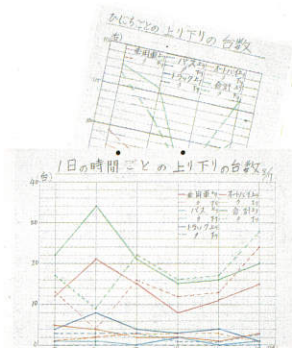
数についての素数に着目し、授業で学習したことを方陣というものに発展させ、しかも論理的に自分たちでまとめ直した作品。お互いのいいところをうまく出しあったグループ学習ならではの成果が十分に発揮されている優れた研究です。

ONE POINT アドバイス



▲「わたしたちは物もち」
岐阜県長良西小学校
四年 久松 陽子

この作品は、アンケート結果を統計グラフに表したものです。色使いもよく、それぞれのグラフが効果的に使われていてねいに仕上がっています。これに、動機や考察をまとめたレポートがあれば、もっとよかったでしょう。



▲「交通量調べ」
東京都開進第三小学校
四年 後藤真之介・醍醐 温

場所や日時を決めて交通量を調べたこの作品は、写真や地図も利用され、研究の手順が大変しっかりしています。ただ、結果だけでなく、予想を入れたり、車別にした理由を加えれば、さらに高い評価が得られたでしょう。